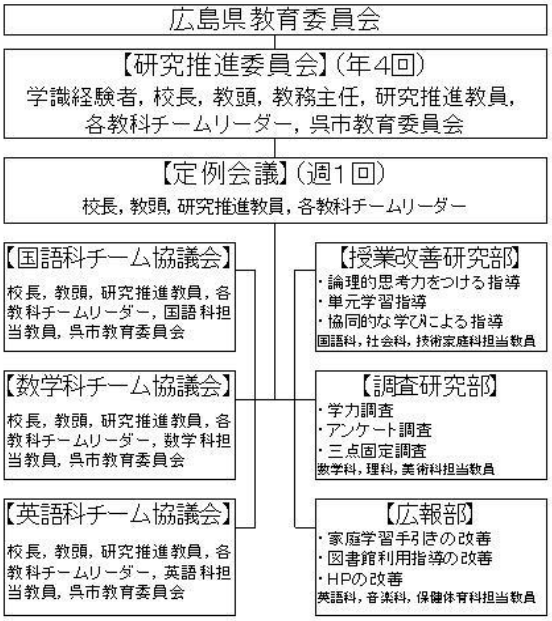
呉市立和庄中学校
（中学校学力向上対策事業研究推進校）

1　研究の概要

（1）研究のテーマ

「意欲的に学び，豊かな表現力を持つ生徒の育成」
－「ひろしま」学びのサイクルを生かした授業を通して－

（2）研究組織　　（図１）

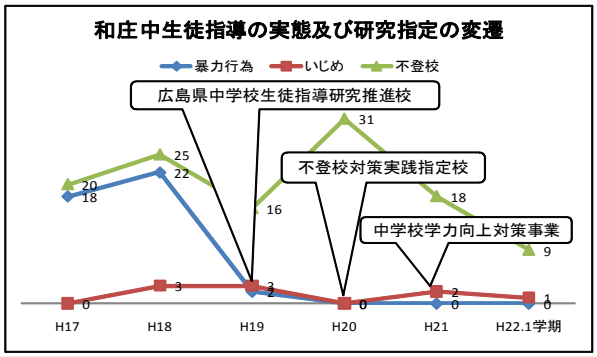


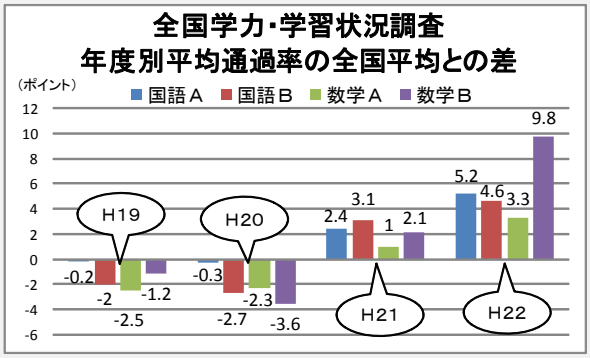
本事業推進のため，年に４回の和庄中学校学力向上対策事業推進委員会の開催と研究部会を，また，週１回の定例会議を週時程に位置付けた。さらにその会議録を毎回全教職員に配布している。

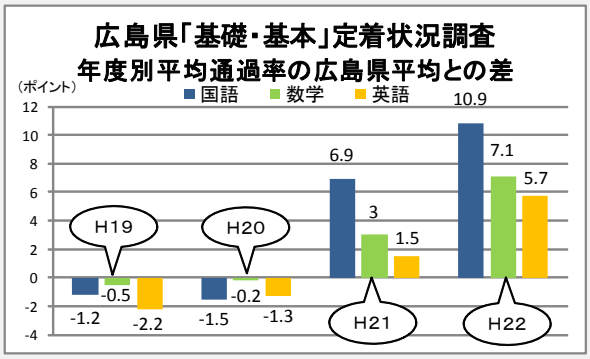
（3）校内研究推進体制　　（図２）

本事業推進のため，構想図を校長室・職員室に掲示し，全教職員が意識し取り組めるようにしている。

（4）研究のねらい







本校は，平成１８年度までは暴力行為が多発し，生徒指導上に大きな課題を抱える学校であった。問題行動はここ数年で落ち着いてきたが，不登校生徒は年々増え，平成２０年度には，不登校生徒が３１名に上るなど，大きな課題となった。さらには，遅刻・早退する等，基本的生活習慣が確立できていない生徒が多い実態があった。学力的には基礎・基本の定着も十分でなく，自ら課題を見付け問題を解決しようとする姿勢や，家庭学習の習慣が身に付いていない生徒も多かった。

そこで，平成２１年度から広島県中学校学力向上対策事業の指定を受け，「基本的生活習慣の確立」「基礎・基本の定着」「家庭学習の定着」を目指して取組を進めてきた。事業１年目は積極的生徒指導を展開し，各学力調査における本校生徒の課題を分析し，授業改善と家庭学習の定着を図ることを目指すため，テーマを「確かな学力を持ち，自らの課題に主体的に学習に取り組むことができる生徒の育成～思考力・判断力・表現力を高める授業づくりを通して～」とした。本年度は，校内の研究組織を見直し，全教科・全領域で授業改善を進め，豊かに自己表現し，主体性を持って意欲的に学ぶ生徒を育成することを目標に，テーマを「意欲的に学び，豊かな表現力を持つ生徒の育成～『ひろしま』学びのサイクルを生かした授業を通して～」と設定している。

（5）研究内容

☆　和庄中学校「授業づくりプラン」（図3）に基づく研究

①　全教科・全教職員による研究の推進

②　基本的生活習慣の確立と家庭学習の充実

③　小中一貫教育の推進
④　「ひろしま」学びのサイクルを生かした授業づくり
⑤　全教科でのグループ学習の実施

2　授業改善の視点

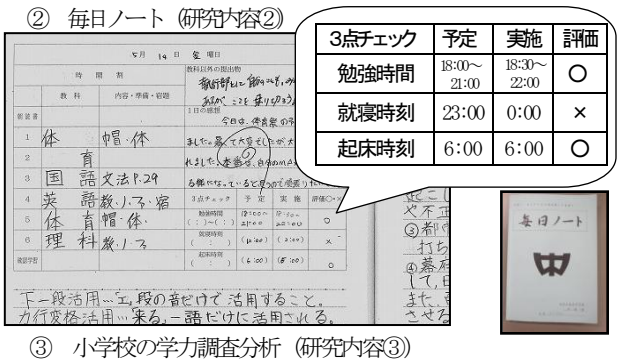
（1）研究内容に関する具体的な取組

①　全教科・全教職員で研究推進を行う体制づくり

（研究内容①）…前頁図１・２，下図３参照

研究の趣旨を全教科で共有し，総合力で学力向上を図る。各教科担当者は３つの研究チームに分かれて取組を進める。また，全教科で授業研究を行い，授業改善に取り組む。

②　毎日ノート（研究内容②）



③　小学校の学力調査分析（研究内容③）

小学校の学力調査の結果を分析し（国語科，数学科），中学校第１学年の生徒に対して課題の克服のための授業を行う。

④　乗り入れ授業（研究内容③）

国語科，数学科，英語科で中学校の課題をもとに中学校教員の専門性を生かして乗り入れ授業を行う。

⑤　各教科チーム（中学校学力向上対策事業）の取組（研究内容④）

＜国語科＞

ア　調査結果からの課題

・読むこと「文章の構成・展開」
・言語事項「主語･述語の関係」

イ　手立て

・音読の充実を図る。また，授業では常に主語・述語の関係を意識した読解をさせる。
・文法の学習において問題集を用意し，計画的に実施する。また，グループごとに学び合う体制づくりも図る。さらに，品詞分類表で品詞を確認させたり，文法用語を理解させたりした上で，小テストに取り組ませる。
・論の展開をとらえさせるため，文章構造図の作成をグループで取り組ませ発表させる。
・説明文において，筆者が主張を述べるために，どう展開を工夫しているのか，会話文，例文，接続語などを基に取り組ませる。それをグループで討議し，他の考えと比べる学習を行う。

＜数学科＞

ア　調査結果からの課題

・数と式「１次式の減法」
・関数（数量関係）「グラフの考察」
・図形「展開図」

イ　手立て

・１次式の計算を，毎時間の導入にドリルなどで取り組ませる。また，毎日ノート(家庭学習)，数学ノート(復習コーナー)で，繰り返し学習させる。
・日常生活の中にある数量（列車やバスの運行，バネとおもりなど）をグラフで表し，その中でグラフを活用する力を付けさせる。作成したグラフを考察する際，グループ学習を取り入れる。
・具体物を操作する，模型で考えるなどの活動を取り入れ，実体験を基に理解させる。その際，グループで協力して操作させ，考察させる。

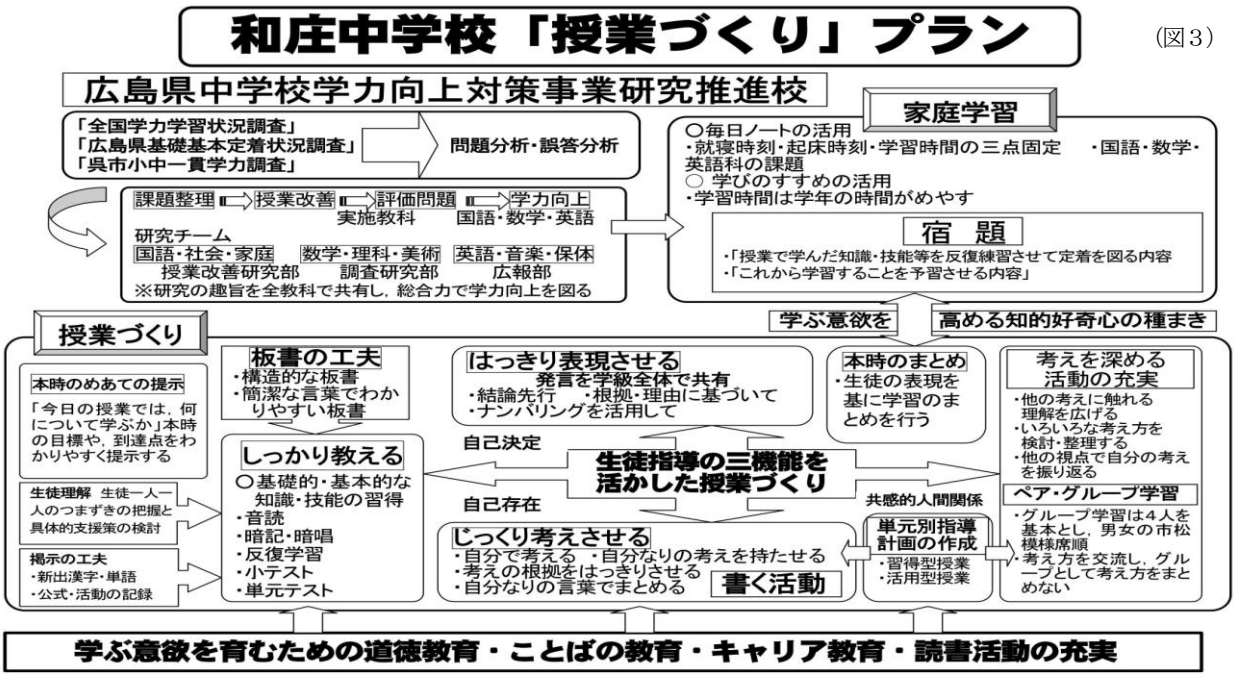
＜英語科＞

ア　調査結果からの課題

・読むこと「適切な語を用いた会話文の組み立て」
・聞くこと「リスニング問題」
・書くこと「自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように書くこと

イ　手立て

・英文を日本語に訳させるだけではなく，Ｓ＋Ｖを意識し，文構造やきまりを理解させるように努める。
・日々の授業において，曜日・日付等を意識して繰り返し練習させる。
・既習の内容を定着させるため，インプット教材の導入と口頭における繰り返し指導の徹底を行う。また，その英文を正しく書くことができるよう指導する。
・毎日ノートを活用し，学習内容の定着を図る。
・グループ学習によって，生徒同士によるコミュニケーション活動を行う。

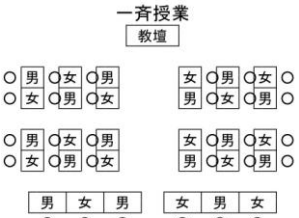


（図３）

⑥ グループ学習（研究内容⑤）

ア．全学級の席の配置を「コの字型」に統一。

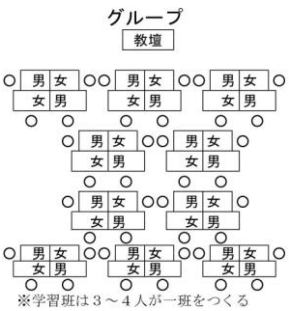
○生徒が発表するときにお互いの顔が見えるように普通教室の配置をコの字型にする。



※生活（委員会）班は６人が一班をつくる
※実際には真ん中の空間はもう少し広い

イ．グループ活動の席

○男女混合の３～４人で市松模様の配置にしたグループをつくる。



※学習班は３～４人が一班をつくる

一斉学習は教壇に対して全体が「コの字型」の形態を取る。また，話し合い活動は，男女混合の４人で１グループを作ることを原則とし，各グループが教壇に対して「逆Ｔ字型」の形態を取る。「コの字型」では意見交換の際，生徒がお互いに表情を見ながら，発表し合い聞き合うことができる。４人１組の「逆Ｔ字型」では少人数で意見交換がしやすい。授業では必ず学び合いの場面を作り，お互いに表現の場を増やしていき，分からないところを教え合う中で，生徒同士の交流を活性化し，思考力，判断力，表現力の向上を図ることをねらいとする。

（2）研究内容を促進するための取組

研究の推進状況を「研究じゃけん」（学力向上コラム）として，学校通信に掲載し，研究内容・研究状況とも保護者連携を図る。ホームページにも掲載。

（URL: http://www.city.kure.hiroshima.jp/~wasc/）

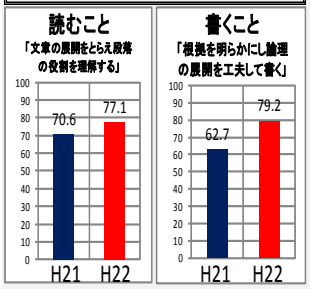
3　研究の成果と課題等

（1）成果

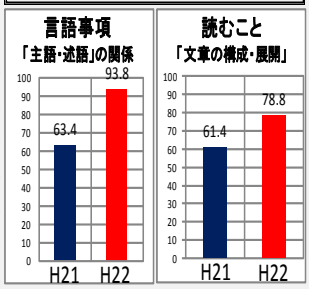
① 学力の向上

全国学力・学習状況調査，「基礎・基本」定着状況調査の結果は，これまでの平均正答率・平均通過率を全教科で上回っている。

平成21年度全国学力・学習状況調査の分析から
平成22年度課題克服へ

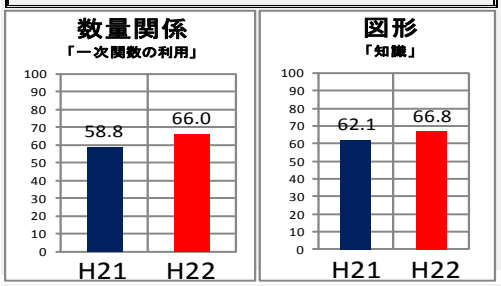


平成21年度「基礎・基本」定着状況調査の分析から
平成22年度課題克服へ

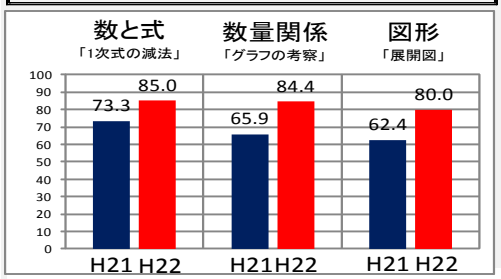


イ　数学科

平成21年度全国学力・学習状況調査の分析から
平成22年度課題克服へ

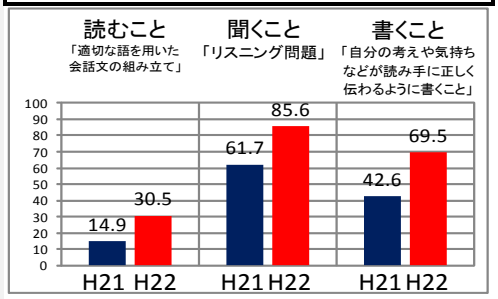


平成21年度「基礎・基本」定着状況調査の分析から
平成22年度課題克服へ



ウ　英語科

平成21年度「基礎・基本」定着状況調査の分析から
平成22年度課題克服へ



③ 授業づくりの充実

ア　教職員の意見

校内研修アンケートからは，「分かろうとする生徒が増えた。」「教え合おうとする生徒が増えた。」など，学ぶことに対し，意欲的な生徒が増えてきた様子が伺える。さらに，和庄中学校「授業づくりプラン」に掲げる，目標，課題文，問題文などの一斉音読においても，「しっかり声を出し，声をそろえて行うことができるようになってきた。」という声が聞かれるようになった。

イ　生徒の意見

生徒質問紙の自由記述から，「小グループで意見交流をしていくうち，自分自身に自信がついてきた。」「人の考えを聞いて新しい発見ができた。」また，「自分の考えを深めることができた。」などの意見が出てきた。

④ 生活と学習に関する意識の向上

和庄中学校の3年生の生徒は全国の結果と比較して，生活習慣が身についている生徒の割合が高くなってきている。

全国学力・学習状況調査の生徒質問紙肯定的回答率（%）

	質問項目	平成20年度 全国	平成20年度 本校	平成21年度 全国	平成21年度 本校	平成22年度 全国	平成22年度 本校
三点固定	就寝時刻が決まっている。	68.3	+4.7	69.3	+14	71.2	+19.5
	起床時刻が決まっている。	90.5	+3.5	90.9	+5.2	91.5	+5.4
	家庭学習を1時間以上行う。	65.5	+10.5	65.2	+15.2	66.6	+25.2
家庭学習	家庭で授業の予習をする。	28.6	+9.4	29.4	+8.8	30.1	+17.3
	家庭で授業の復習をする。	40.0	+19.0	40.4	+32.2	44.1	+25.0

※平成21年度からの本校の数値は全国との差異

具体的方策

平成二十一年度固定学習時間の確保
毎日ノート
起床時刻・就寝時刻の定着を図る
活用した家庭学習の取り組み

平成21年度から平成22年度の推移である。生活習慣が確立し，家庭学習も定着してきている様子が伺える。

（2）課題

① グループ学習について

和庄中学校の2年生の生徒はグループ学習導入1年で「理由をつけて話す」割合が低くなってきている。

具体的方策

平成21年度入学からの「表現力」の推移（%）

	内　　容	H21.9	H22.9
表現力	自分とちがう意見も受け入れながら，自分の考えを話しています。	63.2	+0.9
	なぜ，そうなるのか，理由をつけて話しています。	73.6	−9.5
	自分の考えや意見を，具体的な例を挙げ順序に気をつけながら話しています。	52.9	+11.2

グループ学習開始時の表現力・思考力・判断力・表現力を育てる。

平成20・21年度に全教科で思考力・判断力・表現力を育てる。

※平成21・22年度とも9月実施「学習アンケート」による

第２学年の「表現力」の推移である。入学年度の２学期から導入した「思考力・判断力・表現力」の育成を目標としたグループ学習であるが，「理由をつけて話す」項目の減少が目立つ。学習内容もより高度になってくるため，グループによる話合い活動のさせ方や話合いの目的の明確化などあらゆる視点からのさらなる分析が必要である。

② 学力面

国語科	読むこと「説明的文章における段落相互の関係理解」	47.5
	読むこと「文学的文章における登場人物の心情の把握」	51.3
数学科	関数（数量関係）「比例の意味」	57.5
	図形「円すいの体積」	53.8
英語科	読むこと「適切な語を用いた会話文の組み立て」	30.5
	書くこと「つながりのある英文を書くこと」	48.8

※数値は通過率

（3） 今後の改善方策等

① グループ学習の深化

収束型，拡散型，習得型，活用型など，学び合いの場面を構築し，本校独自の逆Ｔ字型４人グループの学習の指導形態により，効果的な学習へと深化させ，思考力・判断力・表現力の向上を図る。

② 単元指導計画の充実

各単元における，習得・活用型の授業づくりを明確にした単元指導計画を作成し，和庄中学校「授業づくりプラン」に基づく授業づくりの徹底を図る。

③ 家庭学習の習慣化の継続

・学習の手引きの改善（家庭学習も含む）

・本校独自の毎日のノートの改善

授業で発見，家庭で定着の授業を推進する。指定３年目にあたる来年度へ向け，この２年間の成果，課題を整理・分析し，チェックからはじまる授業改善マネジメントサイクルを確実なものとし，この研究が生徒にとってより効果的なものとなるよう推進を図る。

４ 実践事例【 国語科 】

（1）実態把握

① 平成20年度全国学力・学習状況調査　小学校国語Ｂの４（「意見文を書くために，二つの意見文を比べて読み，文章全体の組み立ての違いをとらえることができるかどうかを見る」）を実施

② 正答率

ア 〈中村さんの意見文〉

県平均60.8%　本校校区の全小学校平均67.0%

イ 〈山下さんの意見文〉

県平均36.4%　本校校区の全小学校平均41.5%

（2）課題分析

① 情報の整理ができない

ア 要約ができない。

イ 文章の組み立てが理解できない。

ウ 書き手の意見を正確にとらえることができない。

② 和庄中学校生徒の傾向

ア 〈中村さんの意見文〉についての正答は67.0%であった。特に解答類型４の8.5%にあたる生徒は，一部分だけ読んで判断しており，まとまりで読むことができていない。

イ 〈山下さんの意見文〉についての正答は41.5%であった。特に解答類型２の19.1%にあたる生徒は，書き手の意見や提案を読み取る力が不足している。

（3）学年　第１学年

（4）単元の紹介

① 単元名　　第５単元「読むこと」

② 単元の目標

事象と書き手の感想，意見を読み分けて文章の展開や情報を正確にとらえることができる。

③ 単元の展開（指導計画）

・小学校で身につけた力の確認(1)

・「マンモス絶滅のなぞ」を読み，書き手の意図を考える(2)

・「ハチドリの不思議」を読み，書き手の意図を考える(2)

・「マンモス絶滅のなぞ」と「ハチドリの不思議」の比べ読みをする(1)　・・・・・・・・・・・・**本時**

・それぞれの文章について書き手の論理の展開の仕方を考える(1)

（5）授業改善のポイント

① 指導方法の工夫

事象と書き手の感想，意見を区別し，文章構造の読み取り方法を工夫する。

（「授業づくりプラン」じっくり考えさせる・はっきり表現させる）

② 教材の工夫

小学校第６学年で学習した説明文を活用する。

③ 評価の工夫（評価問題，調査問題も含む）

観察，ワークシートで評価し，評価問題で確認する。

（6）授業の様子

既習事項を確認するグループ学習では，「メモを取らず，口頭のみの交流にすること」を指導した。生徒同士は視線を交わしながら活発に意見交流を行い，そこでは「他人の発表をしっかり聴く」場面，「分からないところを自分から聞く」場面が多く見られた。また，書き手の意図を考えるグループ学習では，「生徒同士の意見をつなぐ」，「生徒を教材にもどす」ことを，指導の柱とした。そこでは，生徒一人一人が「主体的に意見を持ちよる」場面，交流により「答えを自分で確信する」場面が見られた。

（7）検証

評価問題の正答率

ア 中村さんの意見文に対応する評価問題　85.7%

イ 山下さんの意見文に対応する評価問題　78.6%

（8）成果と課題

本単元目標達成のため，「授業づくりプラン」のグループ学習を中心に授業改善を図った。ここでは，対話することによって生徒全員が，授業に参加することをねらいとした。既習事項を確認する習得型のグループ学習では，「指摘しあう，吟味しあう，修正しあう」活動が見られ，書き手の意図を考える活用型のグループ学習では「創造し合う，錬り合う，直し合う」活動が見られた。これらのことが評価問題の正答率の大幅な向上につながったと考えられる。反省点として，教師から生徒への課題の補足が多く，生徒の思考が中断したことがあげられる。また，グループ学習も「議論し合う（批判し合う）」活動にまでは至らなかった。今後は，国語科チームにより，発問を精選し，生徒の思考の深化を図り，生徒同士が主体的に学び合える課題の創造を目指していきたい。